

<問題>

親会社P社と子会社S社に関する以下の【資料】から、答案用紙のX5年度（X4年4月1日からX5年3月31日）の連結財務諸表を完成しなさい。ただし、税金については考慮する必要はない。

【資料】

- P社はX3年3月31日にS社の発行済株式総数の75%を364,500千円で取得して支配を獲得し、その後S社を連結子会社として連結財務諸表を作成している。X3年3月31日時点のS社の個別財務諸表は以下のとおりである。なお、のれんの償却は、支配獲得日の翌年から5年で均等償却する。

貸借対照表					
X3年3月31日現在			(単位：千円)		
諸 資 産	1,200,000	諸 負 債	810,000		
		資 本 金	250,000		
		資 本 剰 余 金	100,000		
		利 益 剰 余 金	40,000		
	1,200,000		1,200,000		

- S社はX4年4月1日からX5年3月31日までにP社に配当を22,500千円行っている。なお、前期において配当は行われていない。
- X4年3月31日時点のP社及びS社の利益剰余金は、それぞれ135,000千円及び145,000千円である。
- S社はP社に対して前期より仕入金額に20%の利益を付加して商品を販売している。当期のS社からP社に対する売上高は865,000千円である。なお、当期末にP社の期末棚卸資産に含まれるS社仕入分は108,000千円であり、前期末にP社の期末棚卸資産に含まれるS社仕入分は126,000千円である。
- P社は前期に土地（帳簿価額42,000千円）をS社に40,000千円で売却した。
- S社は期末の売掛金残高に対して2%の貸倒引当金を設定している。当期末の売掛金残高のうち12,000千円はP社に対するものである。なお、期首にP社に対する売掛金残高はないものとする。
- P社およびS社の当期の財務諸表は、次のとおりである。

損益計算書					
自 X4年4月1日			至 X5年3月31日		
			(単位：千円)		
科 目	P 社	S 社	科 目	P 社	S 社
売 上 原 価	2,880,000	1,332,400	売 上 高	4,843,000	?
販売費及び一般管理費	1,787,600	653,100	営 業 外 収 益	121,000	52,000
営 業 外 費 用	87,400	?	特 別 利 益	21,000	4,500
当 期 純 利 益	230,000	?			
	4,985,000	?		4,985,000	?

貸借対照表					
X5年3月31日現在			(単位：千円)		
諸 資 産	3,347,300	諸 負 債	2,475,800		678,000
売 掛 金	356,800	買 掛 金	489,200		382,000
貸 倒 引 当 金	△ 3,600	資 本 金	950,000		250,000
商 品	258,000	資 本 剰 余 金	143,000		100,000
子 会 社 株 式	364,500	利 益 剰 余 金	265,000		190,000
	4,323,000		4,323,000		1,600,000

連結損益計算書

自 X4 年 4 月 1 日 至 X5 年 3 月 31 日

(単位：千円)

売上原価		売上高	
販売費及び一般管理費		営業外収益	
のれん償却		特別利益	
営業外費用	133,400		
非支配株主に帰属する当期純利益			
親会社株主に帰属する当期純利益			

連結貸借対照表

X5 年 3 月 31 日 現在

(単位：千円)

諸資産		諸負債	3,153,800
売掛金		買掛金	
貸倒引当金	△	資本金	
商品のれん		資本剰余金	
		利益剰余金	

連結株主資本等変動計算書 (利益剰余金)

自 X4 年 4 月 1 日 至 X5 年 3 月 31 日

(単位：千円)

当期末残高		当期首残高	
		親会社株主に帰属する当期純利益	

連結株主資本等変動計算書 (非支配株主持分)

自 X4 年 4 月 1 日 至 X5 年 3 月 31 日

(単位：千円)

当期末残高		当期首残高	
		当期変動額	